令和７年度第４回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日　時：令和７年８月３０日（土）　１０時～１２時

テーマ：いろいろな水草を観察しよう

場　所：茨城県霞ケ浦環境科学センター野外施設「いきもののにわ」および研修室

案　内：小幡和男（茨城県霞ケ浦環境科学センター）

内　容：霞ヶ浦には、かつては多くの水草が生息していましたが、現在は、絶滅危惧種としてわずかに残っている種もありますが、そのほとんどが消滅してしまいました。水草は環境の変化に敏感で、湖岸の改変や水質の悪化が原因と考えられています。

霞ケ浦環境科学センターの野外施設であるいきもののにわビオトープには、霞ヶ浦に生息していた水草を育成し、自然観察や環境教育に利用できるようにしていいます。この観察会では、これらの水草を観察し、霞ヶ浦の環境を考えるきっかけとします。

参加者：１１名（大人８名、子ども３名）

担当職員：５名

パートナー：４名

結　果：この観察会では、センター敷地内の「いきもののにわ」周辺で、水草の観察を行いました。水草とは、浮遊植物（根を張らず水に浮いている植物）、沈水植物（水中に沈んでいる植物）、浮葉植物（根を土中に張り葉を水面に浮かべている植物）、抽水植物（水中から茎や葉を水上に出している植物）の４つの生活形をもつ植物をいうことが多いですが、今回は、湿性植物（湿ったところに生える植物）を含めて水草の観察を行いました。

プリントには、３２種の植物のリストを掲載しましたが、このうち１５種が絶滅危惧種に選ばれています。いかに水草が絶滅の危機に瀕しているかがうかがえます。また、今回観察する水草はほとんどが薬用植物として利用されており、人の役に立つものが多いことがわかります。

観察は、８月末だというのに猛暑日になる予報が出ており、熱中症に注意しながら観察を行いました。３０分ごとに休憩を取り、下に示したイグサ・フトイのところからはサンプル

を採ってきて室内での観察、タコノアシからはいったん観察会を終了して余裕のある参加者のみでの観察としました。参加者の皆さん全員元気に観察会を終了することができました。

観察会で観察した主な水草についてその内容を下に示します。

エゾミソハギ・・・ミソハギ科の湿性植物。この季節に湿地で赤紫色の綺麗な花を咲かせる。似ている植物にミソハギがある。

シロネ・・・シソ科の湿性植物。段になっている節に白い小さな花が見られる。シソ科の植物は茎の断面が四角いのが特徴。

ガマ・コガマ・ヒメガマ・・・ガマ科の抽水植物。ガマのなかま３種を比べながら観察した。フランクフルトソーセージの様な穂と雄花のついた跡の間に隙間があるのがヒメガマ、ないのがガマとコガマ。ガマとコガマは大きさで区別できる。ガマ類の花粉は「蒲黄（ほおう）」の名前で止血などの薬になる。

ショウブ・・・ショウブ科の抽水植物。ショウブというと普通アヤメ科のハナショウブを連想する人が多いと思うが、端午の節句に菖蒲湯に使うのはこのショウブ。ハナショウブと葉は似るが、いい香りがして、花は目立たないこん棒状。

コウホネ・ヒツジグサ・・・スイレン科の浮葉植物。コウホネは抽水植物になる。両種とも尾瀬の湿原にもある植物（尾瀬ではオゼコウホネ）。コウホネは抽出葉と沈水葉の違いを観察した。ヒツジグサは、未の刻（午後１時から３時）に花が咲くのでこの名前がある。

アサザ・ガガブタ・・・ミツガシワ科の浮葉植物。両種とも花は午前中に咲いて午後はしぼんでしまう一日花。アサザは１０数年前から霞ヶ浦では激減した。

ジュンサイ・・・ジュンサイ科の浮葉植物。葉に切れ目がなく、盾状についているので、ほかの植物と区別できる。若い葉はジュンサイ特有のヌルヌルがある。

トチカガミ・・・トチカガミ科の浮遊植物。葉の裏に特有の浮袋をもっているが、葉が水上に突き出ると浮袋がなくなる。花茎が細い雄花と太い雌花を比較して観察できた。

ハッカ・・・シソ科の湿性植物。外来のハッカの仲間がしばしば湿地にはびこっているが、ハッカは日本に自生する植物。大変いいハッカ臭がする。

ヒシ・オニビシ・・・ヒシ科の浮葉植物。水面から持ち上げて観察すると、葉のつけ根にあ

る浮袋、浮葉と形が全然違う水中葉、花が終わって膨らみ始めた若い果実などを観察した。果実にトゲが２つのヒシとトゲが４つのオニビシを比較して観察できた。

ササバモ・・・ヒルムシロ科の沈水植物。水面から短い棒状に突き出す花を観察した。

ヒルムシロ・・・ヒルムシロ科の浮葉植物。ヒルムシロ科の植物は沈水植物が多いが、ヒルムシロは普通葉を水面に浮かべる浮葉植物。ササバモとそっくりの花を比較して観察した。

オモダカ・・・オモダカ科の抽水植物。矢じり型の葉が特徴。

オニバス・・・スイレン科の浮葉植物。県内では野生のオニバスはほぼ見られなくなった。葉の表裏のびっしり生えたトゲ、紫色の葉の裏などを観察した。

イグサ・フトイ・・・イグサはイグサ科、フトイはカヤツリグサ科の抽水植物。似た名前だが比べるとだいぶ様子が違う。イグサは畳表の材料になる。

タヌキモ・イヌタヌキモ・・・タヌキモ科の沈水植物。食虫植物。葉についた袋はミジンコなどのプランクトンをとらえる捕虫のうである。両種を比較して観察した。

エビモ・センニンモ・・・ヒルムシロ科の沈水植物。殖芽から発芽したセンニンモを観察することができた。

ウキクサ・コウキクサ・・・サトイモ科の浮遊植物。１枚の葉から複数の根が出ているのがウキクサ、１本の根が出ているのがコウキクサ。

クロモ・・・トチカガミ科の沈水植物。１節から葉が４枚出ているのが特徴。似ている植物に外来種のオオカナダモやコカナダモがある。

デンジソウ・・・デンジソウ科の抽水植物。浮葉植物の形もとる。シダ植物。四葉のクローバの様な葉が田の字に見えるのでデンジソウという名がついた。

タコノアシ・・・タコノアシ科の湿性植物。秋に紅葉すると、果実の様子がタコの足を連想させる。

ミズアオイ・・・ミズアオイ科の抽水植物。ハス田でよく見られる。花を見ると雄しべが６本あり、そのうち５本が黄色で１本が目立たない黒紫色。黄色い雄しべは虫を引き寄せるためのおとりになり、虫にとって魅力のない黒紫色の雄しべで確実に受粉を行うという。

マツモ・・・マツモ科の沈水植物。水槽の水草としてよく使われる植物。

令和７年度第４回霞ヶ浦自然観察会

３種類のガマ類の違いを観察

コウホネの太い根茎を観察

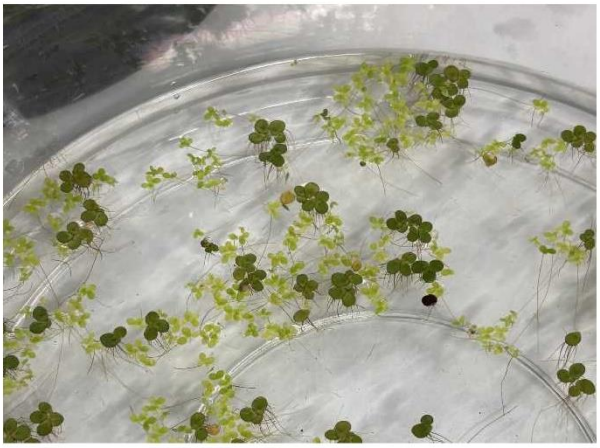
きれいに花が咲いたガガブタを観察

浮葉植物の池でジュンサイとトチカガミを観察

ジュンサイの粘液に包まれた新芽を観察

オニバスのトゲのある葉を観察

研修室で採集しておいた水草を観察


ウキクサとコウキクサの違いを観察